

令和５年度進行管理・評価シート
高野町歴史的風致維持向上計画（平成３１年１月２４日認定）
（最終変更令和５年３月２９日）

□進捗評価シート(様式１)

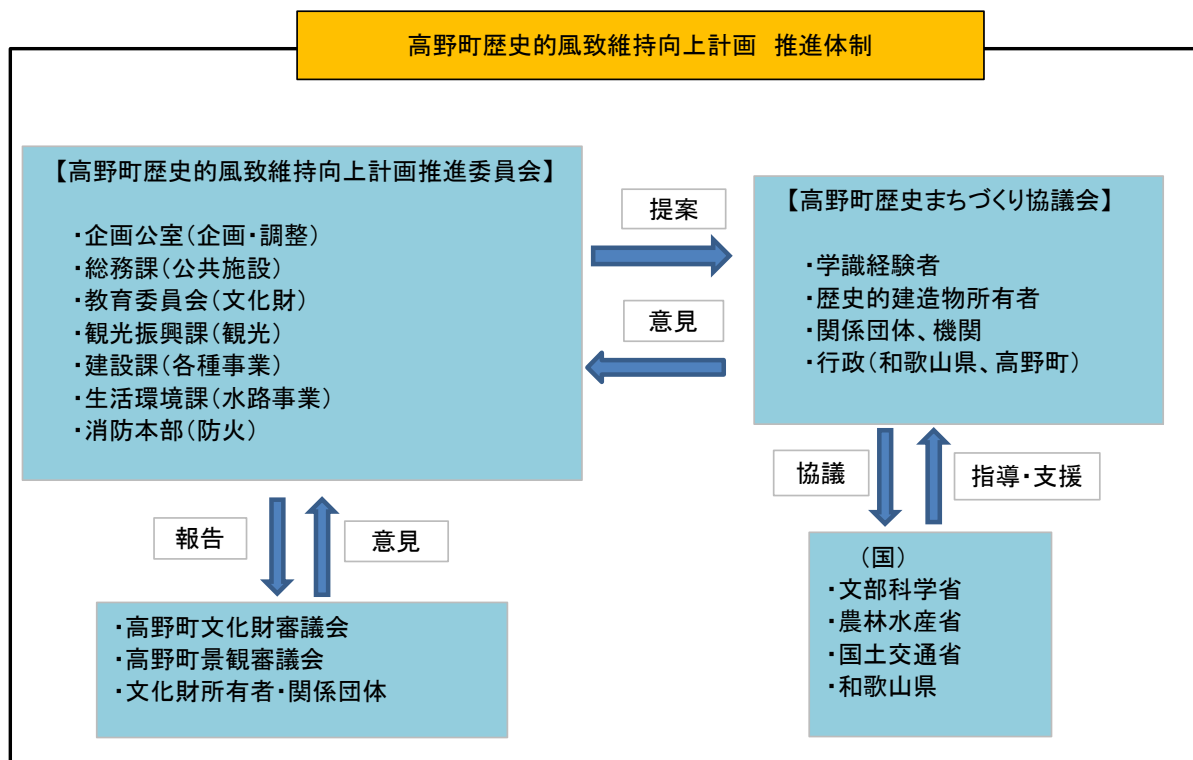
①組織体制(様式１－１)		
１ 計画の推進体制		１
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式１－２)		
１ 高野町景観計画		２
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式１－３)		
１ 電線地中化・歩道設置事業		３
２ 道路美装化事業		４
３ 高野・熊野参詣道保存管理事業		５
４ 史跡金剛峯寺境内(奥院地区)大名墓総合調査		６
５ 文化財保存活用地域計画策定事業		７
６ 情報発信機能整備事業		８
７ 高野参詣道案内・誘導板整備事業		９
８ 歴史的まちなみ整備事業		10
９ 郷土民俗芸能等支援事業		11
10 高野山学推進事業		12
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式１－４)		
１ 文化財の保存・活用に関する取り組み		13
２ 文化財の修理(整備)に関する取り組み		14
３ 文化財の防災に関する取り組み		15
４ 文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する取り組み		16
５ 埋蔵文化財の取扱いに関する取り組み		17
６ 各種団体の状況及び今後の体制整備に関する取り組み		18
⑤効果・影響等に関する報道(様式１－５)		19
聖地に祝いの山車、ねぶた「青葉まつり」		
⑥その他(効果等)(様式１－６)		
１ 高野山の修景整備に関する取り組み		20

□法定協議会等におけるコメントシート(様式２)		21
--------------------------------	-------	----

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
計画の推進体制		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	歴史的風致維持向上を推進するため、行政や文化財の関係者、関係団体、学識経験者などによる高野町歴史まちづくり協議会での意見を踏まえるとともに、本計画に関連する課室の課長、担当職員で高野町歴史的風致維持向上庁内推進委員会を設置し事業の推進を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高野町歴史的風致維持向上庁内推進委員に対し、庁内における各事業の実施、推進管理及び連絡調整を実施 実施回数：1回(メールでの連絡および調整) 高野町歴史まちづくり協議会を開催し、各事業の方針、進捗状況の報告、事業評価における意見聴取などを実施 実施回数：1回(令和5年5月)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

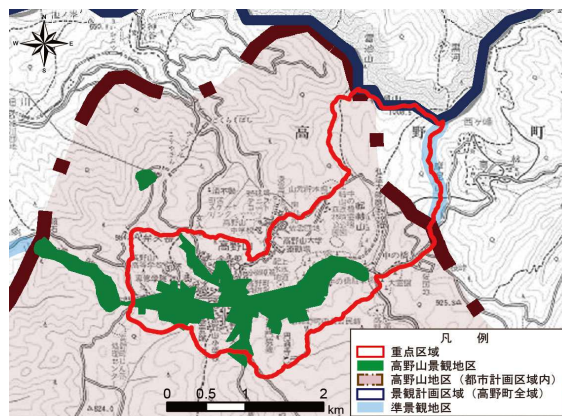


評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

評価対象年度		令和5年度
項目		現在の状況
景観計画		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
計画に記載している内容	高野町は、豊かな自然と文化を守るため全町域が景観計画区域に指定されている。景観法に基づく届出が必要な行為及び基準が定められ、一定規模以上の建築物・工作物等の開発に対し良好な景観を形成するよう規制している。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
1200年の歴史を持つ高野山には国宝をはじめとする美しい日本建築が多数存在します。その歴史、文化を受け継ぐまちなみ、美しい景観を守り、発展させていくため、届出制度並びに美しい街なみ景観整備事業対象事業補助金の活用等により、良好な景観形成を推進している。 令和5年度 景観計画区域内における届出件数: 23件 景観地区における認定件数: 10件 令和5年度 美しい街なみ景観整備事業補助金利用件数: 3件		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		平成20年に景観条例を制定、平成21年3月に高野町景観計画を策定した。良好な景観の形成を実施するために建築物などの新築・改築・増築や屋外広告物など、景観が変わる行為を行う際、届出が必要であり、景観計画の基準に適合するよう指導が必要である。

状況を示す写真や資料等



高野町景観計画区域図


 令和5年度 美しい街なみ景観整備事業による整備
 総持院山門及び塀改修工事

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和5年度
電線地中化・歩道設置事業		現在の状況 ☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和2年度～令和10年度

支援事業名 無電柱化推進計画事業(無電柱化事業)令和2年度～令和5年度・町単独事業

計画に記載している内容 史跡金剛峯寺境内に隣接し塔頭寺院が立ち並ぶ地区の歴史的なまちなみに調和し、安全に周遊出来るようにするため、明神社秋季大祭の神輿ルートになっている町道深山1号線、深山3号線、深山4号線の景観・防災・安全を考慮した無電柱化と歩道設置及び水路への景観に配慮した転落防止柵設置を推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

無電柱化を実施する。

①調査測量設計の実施 ②配管設置工事の実施 ③電線管理者による電線等の挿入 ④既設電柱等の抜柱 ⑤歩道設置等の実施

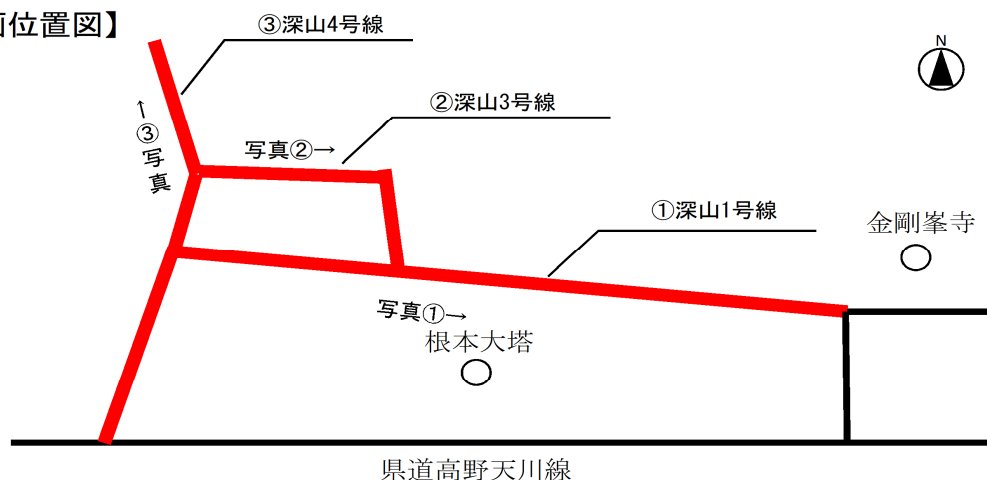
令和5年度で②の配管設置工事③電線管理者による電線等の挿入④既設電柱等の抜柱が完成

⑤歩道設置等の実施を残すのみとなった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	埋蔵文化財包蔵地のため、掘削に関し協議及び調整が必要となる。

状況を示す写真や資料等

【計画位置図】



県道高野天川線



①深山1号線



②深山3号線



③深山4号線

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
道路美装化事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和2年度～令和10年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)令和2年度～令和6年度		
計画に記載している内容	重点区域内には中心道路沿いでなく、その他の沿道沿いにも歴史的建造物や文化財が多く存在する。高野山の中心道路である高野参詣道町石道から国道や重要文化財が存在し、史跡高野参詣道女人道へ繋がる地区への周遊を促進するため町道の美装化(美装舗装・街灯整備)を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
各路線ごとに美装化を行う。 (町道高野相ノ浦線、町道弁天通1号線、町道弁天通3号線、町道弁天通4号線、町道大滝1号線、町道南小田原3号線) 繰越事業となっていた町道弁天通4号線の美装化が90%完了 令和5年度は町道弁天通1号線、町道弁天通4号線の美装化を予定していたが、梅雨前線豪雨、台風により大規模な災害が発生し、災害復旧事業を優先したため、美装化事業を一時休止した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	埋蔵文化財包蔵地のため、掘削に関し協議及び調整が必要となる。また、生活道路として利用している道路であるため、事業実施にあたり地元との調整が必要となる。		
状況を示す写真や資料等			
街なみ環境整備事業(道路美装化) 全体イメージ図			
全体図 		全面平板ブロック イメージ図 	
歩車分離 イメージ図 		歩車分離 イメージ図 	
弁天通4号線 		After PLAN-A 「平板ブロック+アスファルト」 	

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
高野・熊野参詣道保存管理事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和元年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業 国宝重要文化財等保存整備費補助金 和歌山県文化財保護費補助金 和歌山県世界遺産緊急保全対策事業補助金		
計画に記載している内容	各参詣道の保存活用を図るため日常的な保守点検、環境整備及び参詣道が損傷した場合の速やかな修繕を実施するなど適切な管理を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で 高野・熊野参詣道の保存管理については、月1回及び荒天後のパトロールの実施、年2回の草刈りの実施と日常的な環境整備を行っている。参詣道で発生した倒木除去や木橋の補修等の緊急的な参詣道の修繕を実施し、参詣道の良好な環境を維持している。 町石道修繕:4件(9町石付近、45町石付近崩土と倒木の撤去、70町石付近、96町石周辺木組による路面復旧、11町石付近崩土撤去作業、15～16町石付近の木橋修繕)。 女人道修繕:1件(真別処から弥勒峠間の木橋及び一本杉奥木橋修繕)。小辺路修繕:1件(倒木及び崩土撤去修繕)。黒河道修繕1件(子継峠北側)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	参詣道の良好な環境を維持するため、定期的なパトロールを継続するとともに、経年劣化等の状況を把握し、破損カ所等の計画的な修繕の実施に努める。		
状況を示す写真や資料等			
高野参詣道町石道(70町石付近復旧作業後)  熊野参詣道小辺路(倒木及び崩土撤去修繕) 			

評価軸③-3

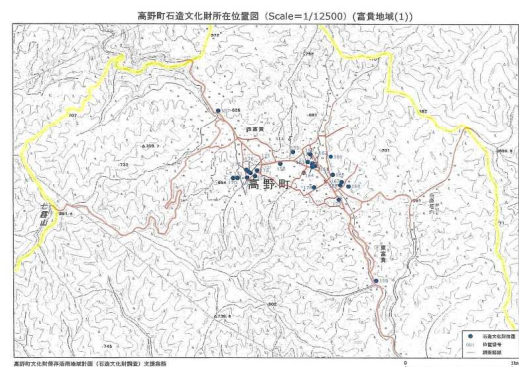
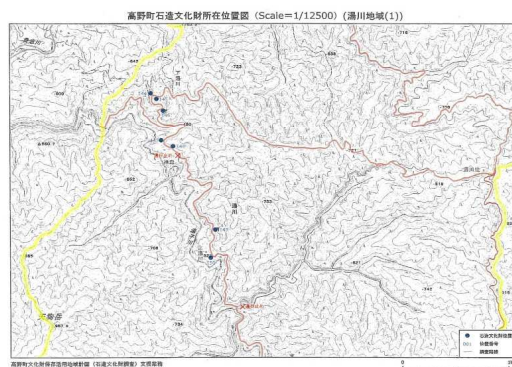
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度
		現在の状況	
史跡金剛峯寺境内(奥院地区)大名墓総合調査		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成28年度～令和6年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	史跡金剛峯寺境内であり、史跡高野参詣道町石道が通っている奥院地区の適切な管理、効果的な活用のためには、地区内に存在する数多くの大名等の墓所の把握、価値付けが必要である。 各藩主や戦国大名について、墓所の位置、構成、墓石の銘文などの調査を行うことにより、奥之院の墓所の内容を明らかにする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
史跡金剛峯寺境内奥院地区に所在する大名家墓所の調査を行った。『報告書』Ⅰにおいて、大名家墓所170か所、大名家以外の墓所91か所を確認し、『報告書』Ⅱでは、中の橋以北のエリアに限り銘文詳細調査を行った。その結果、新たに発見された墓所が21か所、中の橋以北のエリアには149か所の墓所を確認でき、それらを構成する石塔・墓標は889基を数えることがわかった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	令和6年度発行の銘文編『報告書』Ⅱは中の橋以北の限定されるが、将来的に一の橋までの奥院地区全体の様相が明らかとなれば、大名家墓所の具体相などの解明だけでなく、史跡を構成する歴史的・文化的資源としての新たな価値と位置づけを見いだすことができる。		
状況を示す写真や資料等			
 浅野家			
 小出家			

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和5年度
項目		現在の状況
文化財保存活用地域計画策定事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	令和元年度～令和5年度	
支援事業名	町単独事業 文化遺産総合活用推進事業(文化財保存活用地域計画)	
計画に記載している内容	高野町の各種歴史的文化的資源の適切な感知・活用のため文化財全般にわたる基礎調査や台帳整備等が必要である。 文化財保存活用地域計画を策定し、高野町の歴史文化の振興及び地域活性化を推進する。また、得られた情報はホームページ等の活用やシンポジウム等の開催により町内外の人々に適切な情報発信を推進する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
文化財保存活用地域計画策定のため、町内に所在する文化財の内、石造物を対象として調査を実施。 今年度は、富貴地区など高野山地区以外の悉皆調査を実施し、366件の石造物を確認した。		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐計画どおり進捗している ☒計画どおり進捗していない		各種未指定文化財の件数が膨大であるため、基礎調査に要する時間が当初計画より多くかかっており、全体計画の見直しが必要である。



高野町内石造文化財 位置図

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度
		現在の状況	
情報発信機能整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成30年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業 旅行環境整備事業費補助金 (地方での消費拡大に向けた旅行環境整備支援事業)		
計画に記載している内容	訪れた観光客や地域住民などに観光情報センターやICT等を活用し、歴史や文化、観光、各種イベントなど、各種情報提供を幅広く発信していくために、観光情報センターでの展示、Wi-Fi環境の整備、ホームページの充実、多言語情報発信ツールなどの情報発信機能整備を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高野山観光情報センターを整備、平成30年7月2日開館 平成30年度来館者数 57,489名 令和元年度来館者数 81,310名 令和2年度来館者数 63,939名 令和3年度来館者数 62,577名 令和4年度来館者数 75,505名 令和5年度来館者数 99,830名 サイネージ整備:2基、展示物の多言語化、iPad設置:4器、QRTランスレーターの導入 計 延べ440,650名(令和6年3月31日現在)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	年々歳々行われる法会等を説明する多言語化資料の作成が必要		
状況を示す写真や資料等			
  サイネージ(2基) 高野山のPR映像 月間の行事予定 を発信   展示物の多言語化 パネルについては、日本語及び英語で表記 他の言語については、QRTランスレーターを導入し、フランス語、ドイツ語、タイ語、中国語に変換。  パンフレットラック 多言語パンフレットを準備  iPad(4器)整備 情報収集、多言語対応で利用  JNTOカテゴリ2の観光案内所に認定			

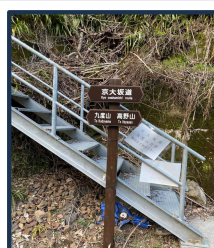
評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
高野参詣道案内・誘導板整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成30年度～令和10年度		
支援事業名	観光庁 地域観光資源の多言語解説整備支援事業(平成30年度～令和元年度) 観光庁 観光地の「まちあるき」の満足度向上整備支援事業(令和2年度～) 文化庁 文化資源活用事業費補助金(令和2年度～令和4年度) 和歌山県 観光施設整備補助金		
計画に記載している内容	山中の参詣道を巡る参詣者や観光客の視点に立ち、迷うことなく巡れるよう案内板や誘導板の整備を行う。近年増加している外国人観光客にも対応できるよう統一されたデザインや多言語表示などの整備を進める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成30年度	高野参詣道女人道を中心に、英語表記の原文作成。		
令和元年度	高野参詣道町石道の英語表記の原文作成。		
令和2年度	高野参詣道町石道及び女人道沿いに多言語解説案内板を設置		
令和3年度	高野参詣道女人道沿いに多言語解説案内板を設置		
令和4年度	高野参詣道女人道沿いに多言語解説案内板を設置		
令和5年度	高野参詣道 京大坂道・槇尾道に新設及び千手院交差点を多言語表記に改修		
進捗状況	※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		高野参詣道は史跡や世界遺産に登録されており関係部署が多岐にわたるため、関係者協議を行いながら事業を進める。	
状況を示す写真や資料等			

状況を示す写真や資料等

令和5年度 多言語解説案内板の整備成果品 (13か所)



評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度
		現在の状況	
歴史的まちなみ整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和元年度～令和10年度		
支援事業名	国庫補助事業 高野町歴史的観光資源高質化支援事業(令和3年度)		
計画に記載している内容	高野町の主要な観光地である高野山地区では、多数の外国人観光客が史跡や寺院巡りなどの街歩きを楽しむ姿が見られる。 町や町民、寺院等が連携し、歴史文化を生かした観光振興を図るため、歴史的な街並みを阻害する建築物等の美装化を実施し、外国観光客の満足度向上やインバウンドの促進を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
事業主体:(宗)金剛峯寺 (高野町:補助関係事務) 金剛峯寺木柵更新工事(本坊エリア)(令和3年度) 実績 H=1.6～1.8m×L=700m 老朽化や転倒により景観を阻害していた、史跡金剛峯寺境内「金剛峯寺本坊エリア」の景観改善がなされた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	関連する他の補助事業との調整を図りながら、該当事業を進めて行く。		
状況を示す写真や資料等			
令和5年度 金剛峯寺木柵更新工事(奥之院エリア)			
 			
施工後			

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度
		現在の状況	
郷土民俗芸能等支援事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和元年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	高野町の各種民俗芸能の保存伝承のための用具の維持管理と後継者指導育成などの活動事業費の補助や必要に応じて調査研究を行うとともに民俗芸能等に関する記録を作成する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
民俗芸能団体が1団体(天狗舞保存会)の活動支援を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		民俗芸能を実施する団体の活動を支援することで、民俗芸能の維持伝承に努める。	
状況を示す写真や資料等			
			
天狗舞保存会 活動状況			

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
高野山学推進事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和元年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	高野山学は歴史と文化によって育まれた「高野山」を体系的に学び、再発見することを目的とする。弘法大師空海が開創して以来、高野山は真言密教の聖地として独自の文化を創り、今日まで継承してきた。その文化を歴史・思想・芸術・信仰・自然・政治・建築などのさまざまな視点で学ぶことができる。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
基本講座・中級講座・特別講座・体験講座を開催。延べ人数1,335名が受講した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	高野山が育んできた文化を様々な視点から学び、その魅力を再認識していただくための講座を開催することで、高野山の魅力を発信していく。		
状況を示す写真や資料等			
			
講座風景 (特別講座)			
			
講座風景(基本講座)			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
文化財の保存・活用に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	文化財は指定・登録の有無を問わず調査を行い、価値が判明したものについては、町指定や国の登録制度などの活用、または歴史的風致形成建造物や町景観重要建造物の指定を検討するとともに、適切な保存管理や活用が図られるよう、計画的に修理・整備や耐震補強等の防災対策等を行なう。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化財の適切な保存管理や活用を図るため、高野山内の石造物を対象とした悉皆調査を実施し、366件の石造物を把握した。 また、昨年度に刊行した報告書『高野山の歴史的建造物』の成果に基づき、建造物の文化財指定を進めた、1件を国重要文化財指定、2件を和歌山県指定文化財に指定することにより、文化財の適切な保存活用に寄与した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	各種の未指定文化財の調査を進め、地域の文化財の全体把握に努める。また、文化財の適切な維持管理や防災対策等が進むよう、文化財所有者や関係機関との連携に努める		
状況を示す写真や資料等			
			
金剛峯寺本坊(国指定)			
			
金輪塔(和歌山県指定) 女人堂(和歌山県指定)			

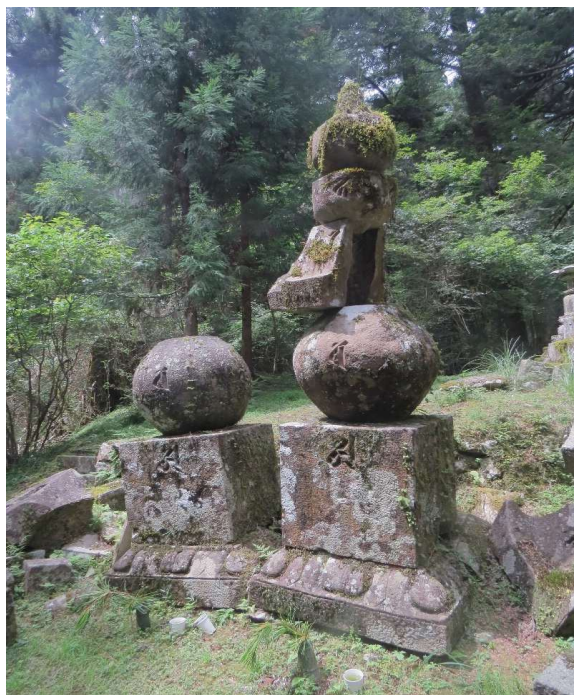
評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
文化財の修理(整備)に関する取り組み		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
計画に記載している内容	文化財の修理は、過去の改変履歴や調査記録などの活用と、新たな調査研究に基づき実施することを基本とする。整備にあたっては、関係機関の指導を仰ぎつつ、それらと連携して適切な整備と修理を実施する。また、各種補助制度を積極的に活用するとともに、民間企業等の支援や連携の推進を図っていくものとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化財の修理としては、1件の建造物(国宝)の修理、2基の石塔(史跡)の修理の支援を行った。また、次年度の文化財修理等が円滑に実施できるよう所有者や関係機関と綿密な調整を行った。 これにより、文化財の適切な保存活用に寄与した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		非常に多くの文化財が存在するため、各文化財の劣化状況等の把握に努め、計画的に修理が実施できるよう、文化財所有者や関係機関との連携に努める	
状況を示す写真や資料等			



国宝 金剛峯寺不動堂 修理状況(左:素屋根建設 右:檜皮の解体)



奥之院石塔(秀頼・淀殿)の修理状況(左:修理前 右:修繕後)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和5年度
項目		現在の状況
文化財の防災に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	火災報知器や消火設備等の防火設備の設置に努め、防災教育・訓練は文化財の所有者等に対して防災に係る周知啓発に取り組み、所有者・管理者・消防が一体となった防災訓練を実施する。 地震への対応としては耐震診断を進め、可能な限り耐震補強工事を実施して毀損・滅失のリスク軽減を図る	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
文化財所有者の文化財防災計画作成への指導・助言を行った。 文化財防災設備の保守点検への支援を行った。		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		所有者、管理者、消防団、消防署と連携し、設備の把握や、防災訓練を実施することで、適切な文化財の防災体制が維持できるよう、文化財関係者の連携に努める。
状況を示す写真や資料等		



防火設備の点検状況(金剛峯寺不動堂)

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和5年度
項目		現在の状況
文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載 している内容	町内外の人々を対象として実施する普及・啓発は、案内板などの設置や文化財パンフレット等の配布とともに、近隣市町や文化財所有者・管理者と協働で参詣道散策や指定文化財の公開等のイベントを開催、町民を対象とした普及・啓発は、広報誌や各種イベント開催などを通じて文化財に対する意識の向上を図り、文化財への愛着を育んでいく。	
	定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
町広報誌で月1回の文化財関係記事の連載を実施し、町民の文化財に対する意識向上に寄与した。 豪雨被害により参詣道き損の影響で、参詣道等の文化財を活用したイベントは実施できなかった。		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		文化財に関する普及啓発については、様々な年齢層の方々に対応できるものを検討実施していく。
状況を示す写真や資料等		

昔から今も残る
高野町内の名所シリーズ 91

お竹地蔵尊 (高野山)

お竹地蔵尊は不動坂口女人堂の向かいにあります。高野山で最大の銅鑄製の地蔵菩薩坐像です。『紀伊統風土記』には「女人堂の前にあり、延享年間江戸横山某の建立にて、一丈六尺の鑄像なり」と記されています。一丈六尺は約4.85mとなります。切石積基礎を含めると約7.4mにもなります。

明治時代に作られた中本富太郎編集の「高野山参詣案内」には「銅像の地蔵尊…女人堂の正面にあり、施主は旧江戸、元飯田町横山たけ、(中略)亭主に死別、愁歎の中にはや七々日の仏事もすみ、亡夫の白骨を首にかけ、泣々高野山に参詣し女人堂に籠り、地蔵尊の霊夢を蒙り、一には亡夫菩提のため、二には女人成仏のため、三には罪障消滅のため、一念発起して、大坂観音院元照上人並に、江戸の法師へ委託して鑄造し、延享二乙丑五月十五日、高野山に建納せしものなり」とあります。

横山たけさんは、亡き夫の供養と願いがかなうよう女人堂に籠もって祈ったところ、夢に地蔵尊があらわれたことから、延享2年(1745)に地蔵尊を建立されました。たけさんの名前にちなんでお竹地蔵尊と呼ばれています。令和2年には「女性とともに今に息づく女人高野」が日本で第96番目のストーリーとして日本遺産に認定されましたが、お竹地蔵尊は構成要素のひとつです。

(教育委員会)

昔から今も残る
高野町内の名所シリーズ 92

地蔵堂 (西富貴)

江戸時代の地誌である『紀伊統風土記』の「西富貴村」のところに、西富貴村、爾志大喜、小名下村、田畑高二百三十三石三斗二升九合三勺五撮、家数五十軒、人数二百九十三人、東富貴村の西につづきたり」とあります。西富貴村には50軒の家があり、293人住んでいたようです。そして、この村には「堂二字」(二つのお堂)があり、一つは村の宮本(宮ノ本)にあった薬師堂、もうひとつが馬場にあった地蔵堂です。

地蔵堂のことは『紀伊統風土記』に「境内周十七間余、村の東一町許馬場といふにあり」と記されています。昭和25年頃まで西富貴の選果場あたりにお堂があったようです。現在、二体の地蔵菩薩像が道沿いのガラスケースの内に祀られ、外から拝むことができます。

向かって左の地蔵菩薩坐像は右手に銅杖をとらないかたちで、左手に火宝珠をとり、腹付近に下衣をみせる姿をし、製作は現代のようです。向かって右の地蔵菩薩立像は江戸時代前期から中期ごろに作られた地蔵菩薩と推測されます。

(教育委員会)

高野町広報での文化財の紹介

評価軸④-5

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱いに関する取り組み		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
計画に記載している内容	埋蔵文化財包蔵地において土木工事等を行う際、届出・通知の必要を周知し、その義務を徹底するとともに、該当する場合は開発事業者との事前調整を経て、試掘・確認調査、発掘調査などで現状把握を行い、その調査結果をもとに、適切な保護措置を和歌山県教育委員会に指導・助言を受けながら実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
埋蔵文化財の取り扱いについては、手引きを作成して配布することで、埋蔵文化財包蔵地での土木工事等を行う際の手続きを開発事業者に示している。また、7件の埋蔵文化財発掘の届出・通知があり、特に事前の現状把握が必要な場合については、確認調査を実施している。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		埋蔵文化財包蔵地での立会調査や確認調査のデータを蓄積することで、開発行為の際に適切な埋蔵文化財の保護できるように努める。	
状況を示す写真や資料等			



埋蔵文化財の確認調査(土層堆積状況)

評価軸④-6

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和5年度
各種団体の状況及び今後の体制整備に関する取り組み		現在の状況 ☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 文化財の保存・活用に取り組んでいる団体等と連携し、これらの団体の活動の活性化を図るため、情報提示や人材育成等を支援し、地域住民を主体とした文化財保護活動を推進していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

多数の文化財を管理する公益財団法人高野山文化財保存会の企画展のチラシ作成、霊宝館だよりの作成等の文化財活用に関する広報活動に対して補助を行うことで団体の活動を支援し活性化に努めている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	文化財保存・活用団体の構成員の減少や高齢化により、円滑な活動が困難になりつつある。

状況を示す写真や資料等



企画展 チラシ作成への支援



霊宝館だよりによる文化財の周知への支援

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル		評価対象年度	令和5年度
年月日	掲載紙等		
聖地に祝いの山車、ねぶた「青葉まつり」	R5.6.16	毎日新聞	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高野山真言宗総本山金剛峯寺で営まれている「宗祖弘法大師御誕生1250年記念大法会」の期間中で、4年ぶりに空海が生まれた6月15日に開催された事により、町内外へのアピールと高野町の歴史まちづくりの周知につながった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし			
状況を示す写真や資料等			
著作権保護のため新聞記事は掲載しません。			

項目		評価対象年度	令和5年度
高野山の修景整備に関する取り組み			
計画に記載している内容	高野山は弘法大師が真言密教の道場として開創された伝統と歴史あるまちであり、聖と俗を隔てる境界に幾重にも包まれている。高野町民はその歴史、文化を受け継ぐまちなみを守り、美しい景観をつくっていく		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付 高野町では平成2年「電線地中化事業」を皮切りに、聖地高野山の景観を取り戻すため、条例整備や修景整備に関する補助事業の実施、町民への修景整備補助制度の創設などの様々な事業を実施し、歴史的な修景整備に取り組んでいる。 平成14年3月度「高野町の歴史と文化を活かした街並景観及び自然景観に関する条例」を制定 平成16年7月「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録 平成20年1月景観行政団体に指定 平成20年12月に「高野町景観条例」を制定 平成21年3月に高野町景観計画を策定 平成31年1月「高野町歴史的風致維持向上計画」認定 令和2年3月「高野町歴史的風致維持向上計画」変更 令和5年3月「高野町歴史的風致維持向上計画」変更			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし			
状況を示す写真や資料等			
			
現在の町なみ			

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和5年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 令和6年度第1回 高野町歴史まちづくり協議会	
会議等の開催日時: 令和6年5月21日	
(コメントの概要)	
議事の内容	
(1) 高野町歴史的風致維持向上計画認定変更(案)について ・意見・指摘事項はありませんでした。 (2) 高野町歴史的風致維持向上計画進捗評価(案)について ・16ページの文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する取り組みについて計画通り進捗していないという説明があったが、どう遅れを取り戻すのか。これから粛々とやっていくのか方針を事務局より、説明をお願いします。	
(今後の対応方針)	
・文化財の保存及び活用の普及啓発に関する取り組みが計画通り進捗していない理由といたしまして、昨年の豪雨被害により参詣道の毀損があり、それらを活用したイベントなどが実施できなかったという形になっております。今後、それが解消されれば、計画どおりに戻っていくというふうに事務局としては考えております。	